

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐくむ **学校力向上プラン**【学校評価書】

中学校区におけるめざす子ども像 「確かな学び」「豊かな心」「健やかな体」を育みながら自他とともに尊重し、自ら考え、行動できる子ども	堺市立八田中学校 校長 尾崎 康之
---	----------------------

令和7年度 重点目標	八田荘学校群目標：「自ら課題を見つけ主体的に考え判断し根気強く取り組む児童生徒の育成」に向けて取り組む ○「子ども理解と関り」を基盤に、誰一人取り残すことなく学びの場を提供し、学校行事の充実や授業改善を通して、一人一人に居場所と出番を確保し、 自尊感情の高揚を図り、互いを認め合い支え合える集団づくりをめざす ——— ○2025八中プロジェクト『さ・し・す・せ・そ』を推進する ———
------------	---

「確かな学び」の現状 本中学校区では、以前より家庭学習に関する取組を行ってきたが、令和6年度の『チャレンジテスト』や各調査等の結果では、各学年とも「学校に持って行く物を前日か当日の朝に確認・学習に必要なものは毎日揃っている・家で学校の宿題をしている」等における肯定的回答率が堺市平均を下回っている。一方、「勉強することは自分に必要なことだと思う・どの方法が自分にあった勉強の仕方かを考えている」での肯定回答率についても課題がある。学習習慣の定着や学習環境の整備等が十分にできていないことや学習における継続力、調整力、主体性等も不十分な現状から、「確かな学び」の確立に向けては、指導方法の工夫改善、家庭とも連携した家庭学習の向上はもちろんのこと、持続可能な形での放課後学習等の取組も必要であると受け止めている。	「豊かな心・健やかな体」の現状 令和6年度の「全国体力・運動能力・運動習慣等調査」の実技結果では、男子が「握力(現中2・3)・反復横跳び(現中2)・シャトルラン(現中3)・50m走(現中2)・立ち幅跳び(現中2・3)・ハンドボール投げ(現中2)」で堺市平均を上回り、女子は「反復横跳び(現中2)・シャトルラン(現中2)50m走(現中2)・立ち幅跳び(現中2)・ハンドボール投げ(現中2・3)」で堺市平均を上回った。堺市学力・学習状況調査(堺市学調)では「保健体育の授業は好きですか」の肯定回答率は堺市平均を上回った。また、「自分には良いところがある・将来の夢や目標を持っている」の肯定回答率は堺市平均を上回った。「健やかな体」を培うために、今後も継続して、体育の授業改善や部活動を工夫して、体育的活動が好きな生徒を多く育成する必要がある。「豊かな心」の育成に向けては、各教科での指導改善や各行事の工夫等を通して集中力、粘り強さ、自尊感情等を育むことができる指導実践が必要と捉えている。
--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (～2月)	達成状況(年度末)					
								自己評価	学校関係者評価				
確かな学び	授業の工夫改善	生徒が意欲を持って取り組むことができるよう指導方法の改善を行う。	●学力向上委員会を核とした授業の工夫改善の発信を行う。 ●公開授業を行い積極的な意見交換の場を設定する。	・肯定的評価を昨年度より向上 ・全員参加の公開授業年3回実施	学校教育アンケート、チャレンジテスト、堺市学調アンケート 公開授業実施の有無	年度末	○	■学力向上、研修委員会を中心に授業改善「学びのコンパス」に関する研修、公開授業においては年間3回実施できた。さらには、全授業者が年間1回の公開授業を行い意見交換を行った。■授業の振り返りについての生徒アンケート肯定回答率は、堺市を上回った(64.7市63.6) ■各教科においてICTを活用した授業実践を行い、生徒の活用法としてグループ学習や発表などの機会を増やすことができた。タブレットのグループ学習や発表での活用についてのアンケート肯定回答率は、堺市を上回った(グループ学習79.8 市72.3 発表77.2市68.0)	○	授業力向上のために、研修を重ねていることは評価できる。今後も校区に合致した方法を模索していただきたい。様々な家庭があり、難しいだろうが継続して学力向上に努めてほしい。			
			●自分の考えを発表する機会や話し合い、グループ学習など取り入れた授業を行う。 ●ICTを活用したわかりやすい授業実践。	・肯定的評価を昨年度より向上	学校教育アンケート、チャレンジテスト、堺市学調アンケート 授業観察等	年度末	○						
			●授業等においてタブレットを積極的に活用する。	・授業において生徒のタブレット活用率を昨年度より向上	学校教育アンケート、チャレンジテスト、堺市学調アンケート	年度末	○						
	学習習慣の定着	学習習慣の定着、学習環境の整備に取組む。	●家庭学習の重要性、その定着に向けて発信を継続するとともに、放課後学習会の実施、その充実を目指す。 ●学校HPや通信等を通して自学自習・家庭学習の大切さを啓発する。	・肯定的評価を昨年度より向上 ・放課後学習会の実施回数や内容	学校教育アンケート、チャレンジテスト、堺市学調アンケート、放課後学習会等の充実	年度末	△	△	■活用頻度は、上がっているが、使用頻度に関するアンケート結果について、堺市平均と変わらなかったが、「ほぼ毎日使用する」では、堺市を下回った。 ■放課後学習会や個別支援学習会を実施しているが、生徒の家庭学習に関するアンケート結果は堺市を下回り(平日：58.0 市61.9 休日：49.1)。保護者アンケートにおいては、家庭学習に関する項目の肯定回答率は昨年度よりも上回ったが67%と他の項目に比べると低い数値を示した。	△	地域性もあるだろうが、家庭学習の定着は長年の課題である。できる範囲で、学校での取り組みに期待したい。		
豊かな心	健全な心	規範意識の向上に努め社会のルールを守る態度を育成する	●登下校指導を活性化し、あいさつ運動を奨励して、各自の自尊感情の高揚を通して社会性を身につけることができるように取組む。	・肯定的評価を昨年度より向上	学校教育アンケート、チャレンジテスト、堺市学調アンケート	年度末	○	■今年度は生徒会や学代も加え、規模を昨年度より拡大して挨拶運動を行った。毎日の登下校指導は、複数の職員で継続して取り組むことができた。■生徒会主体の全校集会の充実を図り、年度を重ねるごとに生徒の集会への取り組み姿勢、聞く態度は醸成されている。「きまりやルールを守っている」(93.8 市94.8 R6本校90.4)	○	「地域であいさつをしているか」という項目は市平均よりも低い値だが、日ごろの登下校指導であいさつのできる子は増えているように思える。教師の見守りは継続してほしい。			
			●集会指導の充実を通して物事の善悪判断等規範意識の高揚に取組み、社会のルールを守る態度を育成し生徒会活動の活性化によるリーダーの育成。	・肯定的評価を昨年度より向上	学校教育アンケート、チャレンジテスト、堺市学調アンケート	年度末	○						
	健やかな体	人権感覚や自尊感情を高め、互いに認め合う心を育てる	●行事や特別活動、総合の時間の充実にも努め、人権教育の充実にも努め、人権意識の向上に取組み、互いの人権を尊重できる心と態度を育成する。 ●集会指導や生徒会活動とも連携し、いじめは絶対に許されない行為であることを十分に理解させるとともに、未然防止・早期発見に努める。	・肯定的評価を昨年度より向上 ・両小学校6年生に中学生が指導する部活動体験の実施	学校教育アンケート、チャレンジテスト、堺市学調アンケート 部活動体験、防犯教室、職員研修実施の有無 視察の市教委の意見	年度末	○	○	■修学旅行、宿泊行事、校外学習、体育大会や文化活動発表会などの大きな行事に加えて、様々な総合等での取り組みにより、仲間づくりや、自尊感情の高揚、一体感の醸成による学力向上、人権意識の高揚を目指した取り組みができています。	○	行事を大切に取組、日々の関わりや丁寧な対応はありがたく、継続してほしい。小学校6年生の部活動体験は好評であり、拡充できるとよいだろう。		
	地域協働	中学校区の連携を深め、小中一貫した教育の充実を図る 学校の取組を保護者や地域に広く発信、周知する	★「学校群」の目標や各取組を共有し小中教職員が一体となり義務教育9年間を見通した教育の実践に努める。特に教科指導(体育)、生徒指導(不登校対応)、学校給食(アレルギー対応)において連携を深める。 ●学校HP等を活用し積極的な情報発信に取組む。 ●見守りを兼ね地域の祭礼や催し等に教職員が参加する等、地域との連携を強化する。	・教員対象のアンケート調査を実施 ・中学校区で全教職員参加研修実施 ・学校HP年間閲覧件数を昨年度より向上。 ・PTAと連携した地域行事への参加 ・月1回の3校長情報交換会に市教委指導主事等参加	学校教育アンケート 小中合同研修会実施の有無 学校HP閲覧件数 学校群取組実践 地域行事参加の有無	年度末	○	○	■今年度も地域の祭礼、催し等、できる範囲ではあるが職員一体となり参加し、地域と交流ができた。学校HPでは、多彩な視点で、各学年の毎日の活動や、部活動など、積極的に発信ができています。学校群においては、両小学校で集団行動発表会を実施し、不登校対応、アレルギー対応など連携を深めている。	○	■学校群では、不登校に関する夏季合同研修とグループ討議を行い交流を図った。毎月の管理職情報交換会、中学校教員の小学校授業参観や研究授業への複数回参加、各分掌による連携(生徒指導、支援学級、アレルギー等)を深めることができた。集団行動発表会は、両小学校で実施できた。■学校HPの積極的な情報発信を行い、保護者からも肯定的な意見も多数いただいた。(保護者アンケート肯定回答率97%)	○	HPを楽しみにしている生徒や保護者が多い。引き続き、学校、子どもの様子を伝えてほしい。 学校群の取組は、継続していただき校区にあった形にしていただければと思う。

校長より(年度末) 「チーム八田」として、「関わり」をベースに今年度も各取組を進めてきた。問題行動の減少、自尊感情の高揚など一定の成果は実感とともに数値にも表れるようになってきた。しかし、学力向上、家庭学習の定着など課題も残る。次年度も本校区が大切にしなければならないベースを意識しつつ、各取組の継続と拡充を組織的に行い、成果につなげていきたい。	学校関係者評価者から(年度末) 学校が、教職員のチーム力を武器に、根気強く取り組みを継続していただいていることがわかる。様々な行事や授業において生徒の表情が柔らかく、生徒同士や先生との関係が良好なことがうかがえる。家庭学習や学力向上に関する課題は、学校での取組だけでは難しい面もあるが、これまでの取組をベースに一層励んでもらえることを期待したい。
---	---